あとがき

今年度は一つの橋梁を、ほとんど丸毎設計するという、かなりの作業量の伴うテーマを選定したが、各委員の忙しい実務の傍らで御奮闘して戴き、なんとか纏めることができた。前年度は、”新交通システム土木構造物設計指針（案）”をいわば外側より捉え研究を行ってきたと言える。今年は試設計という作業を通して、実用面、つまり内側から同基準をもう一度眺めることが出来た。これにより別の視角より研究を進めることが出来、新たな問題点を提起することが出来た。

３年間にわたり新交通、モノレールについての研究を進めてきたが、今回の試設計でほぼ当初の目的は達成出来たと考える。新交通、モノレールは我々の分科会の対象構造物の中でも特に事例が多く、また将来の計画も多いことより、数多くの基準が既存している。しかし、その内容は未だ不備な点も多々有り、今後、整理され体系化されるまでには、かなりの時間を要するであろう。
過去２年間の報告書とあわせ、本報告書がいくらかでも将来への参考となれば幸いである。

来年度の活動内容に付いての大まかな方針としては、

① 新交通／モノレールに付いては、前述のように今回で一区切りとし、べつのテーマを選ぶこととする。
② 来年度は基準が整備されていない構造物に着目し、設計の現状と適用基準の明確化を目標としたい。
③ 特殊橋の中でも事例が多い人工地盤と、近い将来、多く計画されているリニアモータ（浮上式）橋を取り上げる予定である。

以上により、特殊橋分科会の対象とする代表的な構造物については、一通り研究を行う事となる。

最後に、会計担当として多大な雑事を煩わし、又、毎回会場を提供して下さった井澤会員を初め、分科会各位の熱心な活動、並びに鋼橋研究会の運営幹事の皆様の日頃の御努力に深く謝意を表します。

（分科会長：友末記）